

「和歌」を贈る



出典：

P.

組 番 氏名

「和歌」を贈る



出典：

P.

記入例

教科書に載っている和歌以外の場合は、大意（現代語訳）も書く。

和歌と作者名（筆ペンで書く）

どんなときに

誰から誰へ

コメント（この和歌を選んだ理由、どんな思いを伝えたいか、どんな場面にイメージしたかなど、詳しく具体的に）

記入例

「和歌」を贈る

誰からも書けておよい(例: 親から中学生の子へ)

誰へ	片想いの相手へ
どんなとき	控元目に恋心を伝えたとき

コメント(この和歌を選んだ理由、どんな思いを伝えたいか、どんな場面をイメージしたかなど、詳しく具体的に)

作者は、万葉集の編者大伴家持のおいで、家持に影磐を与えた人物。男性にもていたらしい。元水柱のに、自分を「自立たぬように咲く」姫百合にたとえるところがあざとい(心)。だからウニエもてるか。こんな和歌を贈ると、相手はきこえてうれしいと思う。

和歌と作者名(筆ペンで書く)

大伴坂上郎女

夏の野の敏系みに咲ける姫百合の
知らえぬ恋は苦しきものや

教科書に載っている和歌以外の場合は、大意(現代語訳)も書く。

自立たぬように咲く姫百合の花のよりに、あなたに
知ってもらえない私の恋は、つらいものです。

出典: 7-7 P. 74

教科書 or 7-7 or 資料 No. ← 112ページが確認でき